



Weekly Report

次の世代に形を残そう

佐世保北ロータリークラブ 2015～2016年度 R I 会長 / K.R. ラビンドラン ガバナー/ 宮崎清彰

会長/中野雄一郎 幹事/森 豊 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8Fカトリアホール（毎週月曜日）
創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市上京町6番21号 上京ビル4階 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201
E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本 日】会員数45名 出席 23名 欠 席 7名 出席規定免除会員 (15) 出席 7名 ビジター 0名 出 席 率 80.56%
【前々回】会員数44名 出席 23名 メークアップ 4名 出席規定免除会員 (15) 出席 11名 修正出席率 95.00%

《会員卓話》

「なぜ国際協力が必要なのか～ 依存大国 日本～」 小川 寛 会員



開発途上国の問題は世界の問題

世界には195の国があり、150か国以上が開発途上国と呼ばれている国々である。貧困や紛争があり、貧困に

よる衛生事情の悪化が感染症の蔓延や環境汚染にもつながっている。

貧困は教育や雇用の機会を奪い、社会不安を招くことから、紛争の原因にもなっている。国境を超える地球全体の問題は、世界各国が力を合わせて取り組む必要がある。

コーヒーの輸入率は、99.7%。途上国からの輸入がなければ精神的なダメージを受ける。背広等、洋服の半数は途上国。パソコンは55%を輸入日本食に関しても、例えば天ぷらそばの輸入率は、そば97.3%、えび45%である。

日本食はもはや、日本産ではない。鉱物資源がなければ、携帯電話は作れない。天然資源の、原油や天然ガスはもちろんである。国民一人あたりの負担額

ODA 6,600円、道路ダム 45,000円、防衛費 37,000円
(H27年度 公益事業関係費と防衛関係費の予算額からの概要より)

毎日の暮らしの中で開発途上国との関わりをなくしたら、私たちの日常は成り立たない。相互に依存している。

私たちが行っている国際協力。

それは人が人として助け合うだけでなく、私たちが生

き残るための活動でもある。

世界の人口は、国連世界の人口白書によると、1999. 10. 12時点で60億人、今日2016. 3. 14時点で73億1502万人

教育は、すべての国際協力の礎である。

読み書きそろばん

途上国は識字率約20%の国もあり、識字率が低いと職業訓練や母子保健の研修、農業の指導など、テキストを使った指導ができない。

数字に弱いと、お金を扱う仕事をするのが難しくなる。学校教育を普及させて、多くの人々の読み書きそろばん能力を上げることは、

その国を成長させる為の最大の力になる。

今、途上国では学校が足りない。教科書が足りない。

教師が足りない。

教師は教え方も知らない状況。

《会長挨拶》

中野雄一郎 会長

3月11日に東日本大震災の発生から5年となりましたが、死者、行方不明者、関連死は2万1千人を越え約17万4千人が避難したままで、東京電力福島第1原発の廃炉作業は長期に及ぶ。発生から5年間で国が復興予算として25兆5千億円を充てたが、事業には遅れが目立ち、災害公営住宅の完成率は約6割とのこと。

まだまだ時間が掛かるのではないのでしょうか。私達は地震がない地域に住んでることは幸せな事だと思います。

10日に藤井次期会長の励ますパスト会長会がロータリー情報委員会の中井パスト幹事のもとで開催されました。貴重なご意見を頂き、藤井次期会長も参考になられたと思います。

いろんな事はこの年度で引受けます。頑張ってください。本日は小川寛会員の卓話です。楽しみに拝聴します。

《幹事報告》

森 豊 幹事

1. 来 信

・ロータリーの友事務所

- ①ロータリーの友 3月号
- ②次年度雑誌委員長への『友』誌送付について

・公財) ロータリー米山記念奨学会

- ①ソウル国際大会に参加される皆さまへお知らせ
- ②ハイライトよねやま 192

・国際ロータリー日本事務局

- ①2016～17年度 役員報告の締切に関するご案内
- ②母子の健康月間 リソースのご案内

・ガバナーエレクト事務所

- ①地区研修・協議会 プログラム (案)
- ②次年度地区委員推薦のお願い
(職業奉仕地区委員 中島閏二君)

・佐世保市役所

「市制施行・中核市移行記念式典」及び「市政功
労者表彰式」の開催について (ご案内)
日 時: 4月1日 (金) 午前10時00分～12時00分
場 所: アルカス S A S E B O 4階中ホール

・海上自衛隊佐世保地方総監部

観桜会のご案内
日 時: 3月31日 (木) 17:30～19:15
場 所: 海上自衛隊平瀬体育館

2. 伝達事項

- ①3/16 (水) 18:30より馨にて2016～17年度第1回市
内 R C 会長・幹事会が開催されます。
- ②3/20 (日) 15:30より唐津シーサイドホテルにて
2016学年度米山奨学生終了式が開催されます。
三谷会員、タン君よろしくお願ひします。
- ③3/21 (月) は祝日休会となっております。
- ④3/15 (火) 卒業式のため事務局お休みいたしま
す。定休日の水曜日を出勤いたしますのでご迷惑
おかけしますがよろしくお願ひします。
- ⑤3/28 (月) 次会例会はクラブフォーラム (クラブ
運営 (会費) について) です。宮崎有恒次年度幹事
よろしくお願ひします。

《委員会報告》

中井康晴 広報・雑誌文献委員

ロータリーの友 3月号の紹介
横組 P45 2017年 ロータリー財団は100年を迎えます。

ロータリー財団の歴史

1917年、アーチ・克蘭フ RI 会長が「世界でよいこと
をするために」基金の設置を提案。この基金が1928年
に「ロータリー財団」と名づけられて国際ロータリー
内の新しい組織となり、現在のロータリー財団にいた
っています。

財団プログラムの変遷

1947年

財団初のプログラム「Fellowships for Advance Study
(高等教育のためのフェローシップ)」を開始。この
プログラムは後に「国際親善奨学金」として知られる
ようになる。

1985年

全世界でポリオの撲滅をめざす「ポリオプラス・プロ
グラム」を設置。

1987～88年

初めての平和フォーラムが開催され、これが「ロータ
リー平和フェローシップ」創設のきっかけとなる。

2013年

世界中のロータリアンがグローバルなニーズに応えら
れるよう、新しい補助金モデル (地区補助金、グロー
バル補助金、パッケージ・グラント) を導入。

1917年に26ドル50セントの寄付から始まったロータ
リー財団は、10億ドル以上の寄付を受けるほどの大き
な財団に成長しました。財団はこうして多くの方々に
支えられ、人道的分野や教育面での支援活動を続けて
います

研修セミナーのお知らせ

平成28年3月29日 (火) 18:30

テーマ「ロータリーの基礎知識」

平成28年4月予定

ロータリー情報委員会による「家庭集会」

平成28年5月予定 テーマ「クラブの事業について」

.....

《R I ニュース》

ユネスコ水教育研究所の奨学金 申請受付中

ロータリー財団とユネスコ水教育研究所 (UNESCO-
IHE) は、オランダ、デルフトにある同研究所キャン
パスで学ぶための大学院レベルの奨学金10口を提供して
います。この奨学金の目的は、開発途上地域における
水・衛生問題の解決策を探り、それに取り組むことの
できる専門家を育成することです。また、この奨学金
を通じてロータリー会員と水・衛生分野の専門家との
長期的関係を築くことも目指しています。

奨学生は、「Urban water and sanitation (都市の
水と衛生)」「Water management (水管理)」「Water
science and engineering (水科学とエンジニアリン
グ)」のいずれかの修士課程で学びます。申請締切日
は6月15日です。

貧しい人たちに起業の機会を 学友人道奉仕世界賞の受賞者

2015-16年度ロータリー財団学友人道奉仕世界賞の受
賞者は、国際開発の分野で活躍するニューヨーク在住
のスーザン・デビスさんに決まりました。授賞式は、
6月に韓国での国際大会で行われます。

米国ルイジアナ州で生まれたデビスさんは、1980-
81年度のロータリー財団国際親善奨学生として、英国
オックスフォード大学大学院で国際関係を学びまし
た。1987～1991年には、フォード財団のプログラム担
当者として、バングラデシュでマイクロファイナンス
(小口融資) の普及を推進。1億7500万ドルの資金を有

する共同事業を企画・組織し、当初バングラデシュの農村部の5パーセントでしか利用できなかった小口融資を、44パーセントにまで普及させました。小口融資の普及がバングラデシュの生活水準向上に実際にどの程度貢献したかを断定することは困難ですが、『The Economist』誌は、2010年までの20年間にバングラデシュの人びとの平均寿命が59歳から69歳にまで躍進したと報じています。

デイビスさんはさらに2007年、開発支援団体「BRAC USA」を共同で設立しました。パキスタンから独立直後のバングラデシュを救済する団体として1972年に発足した「BRAC」を支援するこの独立組織は、特にアフリカの女性に教育、医療、小口金融の機会を提供することで起業を促し貧困からの脱出を支援しています。

《ハイライトよねやま》

寄付金速報 — 下半期の寄付状況 —

2月までの寄付金は前年同期と比べ3.8%増、約4,200万円の増加です。普通寄付金が0.6%増、特別寄付金が5.6%増となりました。前年度との単月寄付額で比較すると多少減額しましたが、累計額では引き続き直近7年間の中で最高額を維持し、下半期も好調に推移しています。多くのロータリアン、学友からのご支援に心より御礼申し上げます。今年度も残り3カ月半ほどとなりました。今後ともご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

さまざまな寄付のカタチ — 20年前の恩返しから —

2月、大学の指導教官（匿名希望）から70万円もの寄付をいただきました。この先生は、アメリカから毎年米山奨学会へ寄付しつづけている米山学友、張虞安さん（1998-2000／交野RC）の昔の指導教官です。※張虞安さんについては、『ロータリーの友』1月号“よねやまだより”（横組みP30-31）もご覧ください。

「張さんが中国薬科大学からの交換留学生として、私の研究室に配属されたのがご縁の始まりでした。彼が博士課程へ進学する際、たしか制度上の理由で、1年間、入学を待ってもらうことになりました。張さんは経済的に極めて厳しい状況で、その生活ぶりに私も心配し、時折援助したこともありました。

その後、米山奨学生に受け入れていただき、彼の経済的ピンチが救われ安堵すると同時に、貴奨学会の重要性を認識し、感激したことを今もはっきりと覚えています。あれから20年、今回思いがけず、私の退任祝いにと、張さんから多額のお金をいただきました。何かに役立てたいと思っていたところ、彼が貴奨学会に毎年寄付していることを知りました。彼の想いを大切にし、さらなる奨学金の広がりを祈念しながら、張さんの名義で寄付をさせていただきます」

ご存じですか？ホームカミング制度

「ホームカミング制度」は、各地区が米山学友を招へいし、地区大会などでその活躍ぶりを広くロータリアンへ紹介していただく制度です。開始から8年、最近

では地区大会のほか、インターシティミーティング、会長エレクト研修セミナー、クラブ米山委員長セミナー、米山奨学生終了式・オリエンテーションなどに登壇してもらい、ロータリアンにも奨学生にも米山奨学事業の意義を改めて認識していただく機会となっています。2015-16年度は3月現在までに12地区からのべ15人がこの制度で招かれ、ロータリーとの絆を深め旧交を温めました。

また、4人のよねやま親善大使も、地区やクラブからの要請に応じて全国各地へお伺いしています。当会事務局まで気軽にご相談ください。

《ニコニコBOX》

公門新治 親睦活動委員

中野雄一郎 会長 宮原明夫 副会長 森 豊 幹事
小川寛会員、本日の卓話「海外ボランティア」についてよろしくお祈いします。
楽しみに拝聴いたします。

豊島揆一君 小西宗十君 平石晃一君 富田耕司君
棧 護君
小川会員、本日の卓話楽しみです。お酒の話かな？珍しいお酒を有難う。

宮崎有恒君
本日の卓話は、小川寛会員の「海外青年協力隊」です。ケニア赴任中は大変お世話になりました。残念ながら所用にて欠席しますが、ナイロビのインターコンチネンタルホテルのカジノのバーで出会った女性の話は、くれぐれもしないようによろしくお願いいたします。

中尾充宏君
6年間は長丁場だと思っていましたが、経ってみるとあっという間でした。
この間ロータリーを初めて経験し、多くの会員の方々と触れ合いは本当に素晴らしい体験となりました。佐世保高専に対しても、厦門との交流をはじめ多大なご支援を頂き、ただ感謝です。本クラブの発展と皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。

小川 寛君
本日は、卓話をさせていただきます。奥三河の蓬莱泉純米吟醸が手に入りました。つまみはえだ豆のおかきと青森産むつ湾磯浜の帆立貝です。ほろ酔い気分で聞いて頂ければ幸いです。

近藤竜一君 松田信哉君 松尾重巳君 松永祐司君
村瀬高広君 田島 慎君 古賀新二君 永田武義君
中山 誠君 八木順平君 湯口純二君 公門新治君
小川一貴君 蒲池芳明君

本日は小川会員の卓話楽しみにしています。日本酒の差し入れありがとうございます。

本日の合計 33,000円	累計 1,200,000円
---------------	---------------

IT会報委員会 委員長 / 小川 寛	委員 / 中島閔二	松永祐司 蒲池芳明	（記事担当者 蒲池芳明）
--------------------	-----------	-----------	--------------